

家庭科教育研究部

【平成24年4月現在】

主任 外崎 祝子	部員 三浦 由美子
研究主題 生活力を高める家庭科教育	
めざす子ども像 家庭生活に主体的にかかわり、よりよい生活を工夫し、創造する子ども	
研究目標	生活力を高めるために、児童が実感を伴って理解する場を意図的に取り入れた学習を進めていくことが有効であることを実践的に明らかにする。
研究仮説	体験的・実践的な活動を効果的に取り入れた題材構成を工夫することで、主体的に学びを生活に生かす子どもを育てることができる。
研究主題について 1 主題設定の理由 家庭科は、児童の日常の家庭生活を主な学習対象とし、学んだことを家庭生活に生かし、家庭生活をいっそう楽しく、よりよくしようとする実践的な態度を育てることをねらいとしている。しかし、社会環境の変化により、児童を取り巻く環境も大きく変わってきた。加えて、家庭における教育力の低下や家庭生活の簡便化などにより、生活体験が少ない児童が増えている。生活体験の不足は、児童が家庭生活に主体的にかかわっていかこうとする意識や、生活をよりよくしていこうとする意欲を喚起できにくい。 昨年度までの研究では、自分の生活を見つめ、課題意識をもたせ、直接体験を取り入れながら知識及び技能を活用させる場、学びを家庭生活で生かす場を設定してきた。学習を通して、「できた」「前よりも上手になった」という成就感を得て自分の成長を実感し、家庭生活に主体的にかかわっていかこうとする意欲が高まった。また、生活科の学習と関連させ、低学年から多様な体験活動を取り入れ、実践を積み重ねることで、家庭科学習へつなげていくことの有効性が確かめられた。直接体験の場を取り入れることは実感を伴った理解を得ることに有効であり、それが児童の意欲の高まりにつながるということが明らかになった。しかし、学習によって身に付けた知識及び技能の獲得の様子には個人差が見られること、学習内容を家庭生活の中へ生かそうとする児童も多いが、その実践が次の活動へ広がったり、習慣化されたりしていないことが明らかとなった。学習によって得た知識及び技能も、家庭生活での実践につながらなければ、生きていく力とはなり得ない。 そこで、家庭科研究部では、児童が実感を伴って学ぶ場を題材構成の中に効果的に取り入れることで、児童が家庭生活に主体的にかかわり、よりよい生活を工夫し、創造することができると思え、本主題を設定した。	
2 生活力について 児童が家庭生活に主体的にかかわり、よりよい生活を工夫し、創造していく力を「生活力」と捉え、生活基礎力（基礎的・基本的な知識及び技能）を基に、生活力（思考・判断を伴った行為）を身に付けさせる学習を構築する。生活力とは、児童が学んだ知識及び技能を将来	

にわたって家庭生活に生かしていくことができる力と考える。そのため、低学年での生活科と関連させ、実践を積み重ねていく。実践の繰り返しが児童にとって、「できる」「わかる」という成就感をもつことにつながり、新たな気付きも生まれる。それが高学年の家庭科学習において、家庭生活を振り返り、思考・判断することへ発展する。

3 家庭科における思考力・判断力・表現力

家庭科研究部では、家庭科の学習における思考力・判断力・表現力を以下のように捉え、授業を構築していくこととする。

思考力...家庭生活を見つめ、課題を見出し、学習対象と主体的にかかわりながら考える力
判断力...学習した知識及び技能を活用し、課題解決のためによりよい方法を選択する力
表現力...家庭生活をよりよくするための工夫や方法について、学びを生かし、根拠をもって説明する力

研究内容

生活力を高めるために、以下の3つの内容を明確にして、研究を進める。

- (1) 題材構成の工夫
- (2) 評価の在り方
- (3) 言語活動の充実

研究方法

研究内容1について ~ストーリー性のある題材構成~

体験的・実践的な活動を効果的に取り入れたストーリー性のある題材構成を組む。ストーリー性とは、関連する内容を組み合わせたり、連続させたりして、育成したい資質や、能力の育成を図ることができるように題材の配列を考えることである。また、体験の有無や興味、関心の度合い、意欲、既習の知識や技能の状況などを多面的に捉え、めざす子ども像に近づけるために2年間の目標や指導の大まかな流れを考えることである^{*1}。ストーリー性のある題材構成に基づいた学習は、学びに連続性をもたせ、基礎的・基本的な知識及び技能を確かな力として身に付けさせることができる。

研究内容2について ~一人一人の学習状況を見取る評価計画~

各題材の評価計画を基に、時期、対象、方法の工夫を考え評価の場を設定する。評価を指導に生かすこと、また、児童が学習過程において自分の学びの状況を見つめることにより、学習後には一人一人が自分の成長を実感できると思われる。

研究内容3について ~自分の考えを表現させる場や方法の工夫~

観察、実験、実習の際は、観点を明確にして予想させる、自分の考えをもたせる、比較させるなどの学習活動を取り入れる。それにより学習内容についての理解が深まると考える。また、生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動、言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりする学習活動を積極的に取り入れる。さらに、まとめや結果については、自分の生活を結びつけて考えさせることで、家庭生活における実践意欲が高まると考える。

*1 文部科学省『初等教育資料』9月号,東洋館出版社,2008,p39